

「21世紀にふさわしい公園づくり委員会」 第1回 委員会資料

1.計画の前提	-----	1
2.計画の方針(案)	-----	8

- 位置:** 愛知県愛知郡長久手町南東部にあり、東部から南部にかけて瀬戸市と豊田市に隣接している。
- 立地環境:** 尾張丘陵に位置する緩やかな起伏を持った緑豊かな丘陵地にあり、周辺には大学や研究機関等の集積も見られるなど、文化性の高い環境となっている。
- アクセス:** 公園北側に猿投グリーンロード(主要地方道力石名古屋線)、西側に県道田初名古屋線が通る。
博覧会時にはリニアモーターカーによる東部丘陵線が開業。地下鉄藤ヶ丘駅を經由して名古屋市都心部から鉄道で結ばれる。
博覧会に向けて日進JCT~長久手ICが部分開通予定の名古屋瀬戸道路を介し、東名高速道路を通じて県外からのアクセスも容易。
- 規模:** 敷地面積 約190ha

位置付け: 本公園は平成14年より都市計画公園(広域公園)に位置付けられている。

都市計画公園とは

- ・都市計画公園とは都市計画法に基づいて設置および管理される公園である。
- ・良好な都市環境の形成、防災など都市の安全性向上、レクリエーション活動の場の確保、都市景観の向上を図ることを目的としている。

広域公園とは

都市計画公園の種別のひとつ。一つの市町村の区域を超える広域レクリエーション需要を充足することを目的とする公園で、交通の利便の良い土地に配置する概ね50ha以上の公園をいう。

愛知県内の広域公園・国営公園

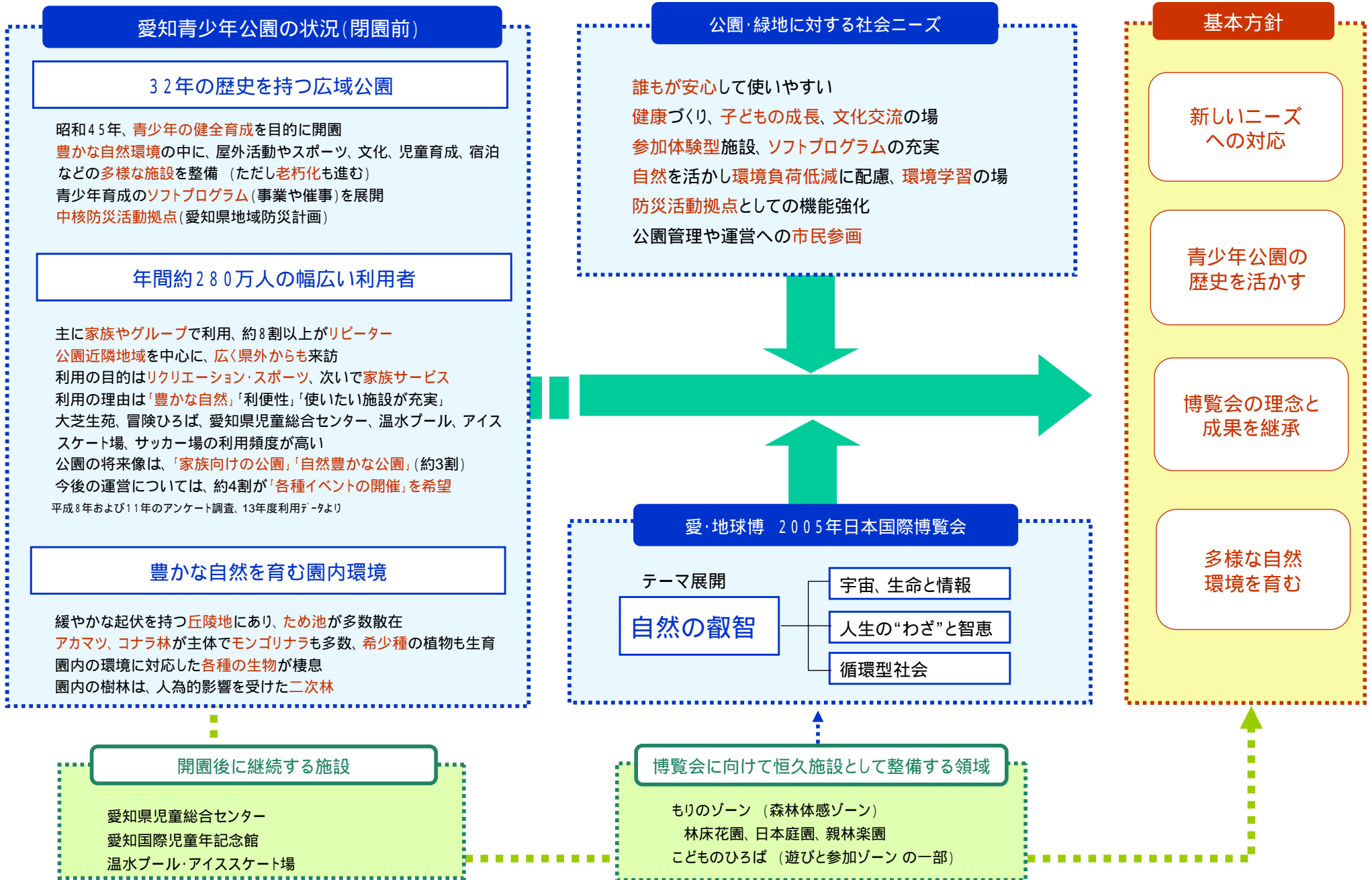


愛知青少年公園の位置



万博終了後、東部丘陵線駅「万博会場」は都市公園名、「万博八草」は「八草」に変更予定

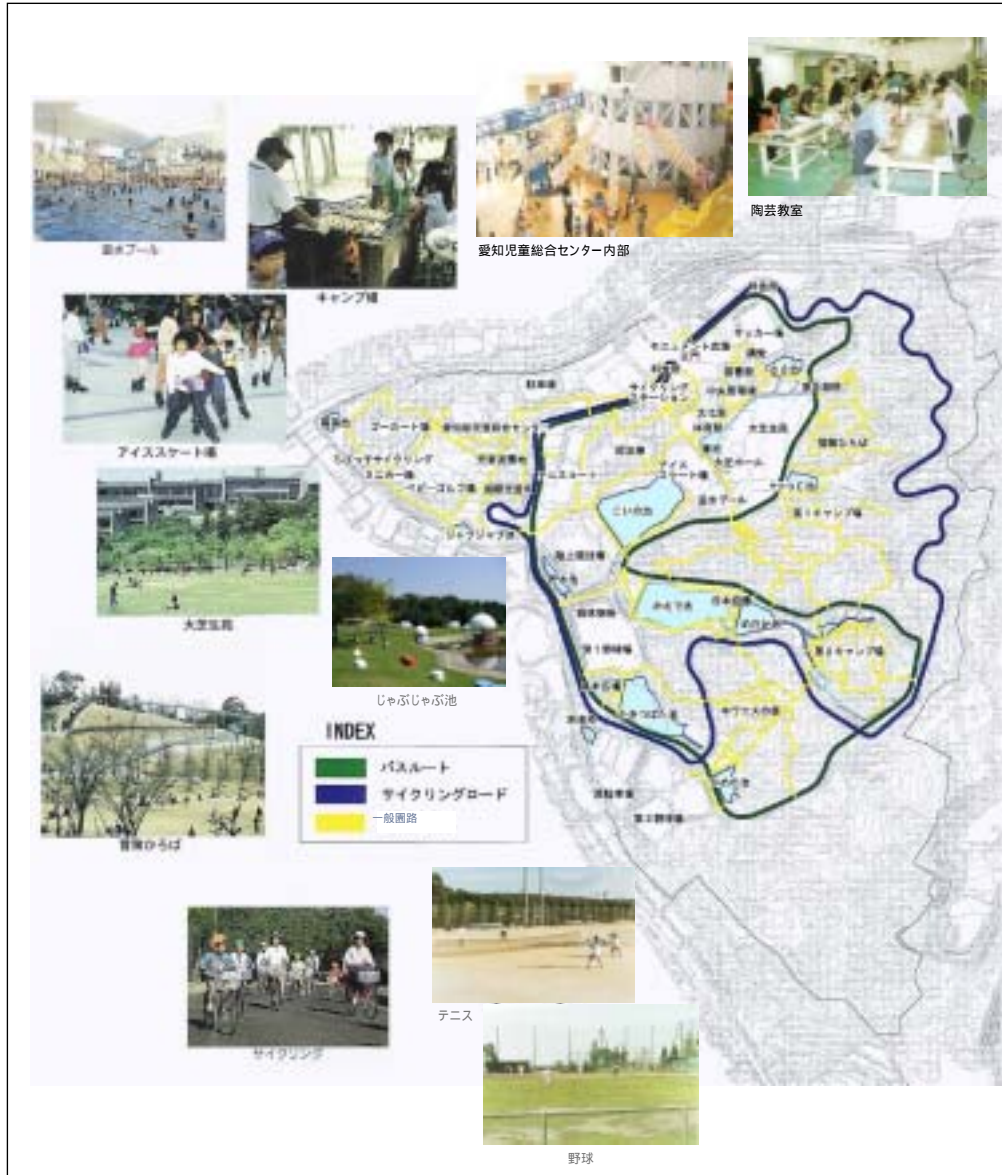
記号	施設区分	記号	施設区分
	有料道路		東部丘陵線
	一般道路		大学
	鉄道		産業・芸術関連施設



愛知青少年公園(閉園前)

閉園

博覧会時



博覧会後も利用する恒久施設として整備するもの
 森林体感ゾーン
 遊びと参加ゾーンの遊戯施設

イメージ

もりのゾーン

基本的な考え方

- もりのゾーンに生息する多様な生物や自然環境を保全・育成
- 誰もが森に入って楽しめるようユニバーサルデザインに配慮
- 環境負荷低減に配慮
- 伝統と文化を学び、ふれあう日本庭園を整備

樹林地の間伐 今まで放置されていた樹林内環境を間伐により改善



「もりのゾーン」計画平面図



日本庭園

「水(=自然)」と「土(=素材)」と、この地の伝統産業である「焼き物」の象徴としての「火(=わざ)」をテーマに、風土の魅力を新たな庭園像の中で表現。また、水や大地を象徴する「竜」をデザインのモチーフとし、川上に向かって駆け上がる竜の姿から、こどもたちの成長を願う青少年公園の理念を伝える。



林床花園

樹林地の間伐を行い、林床部や林縁部に花木や草花の自生を促し、四季折々の風景が楽しめる空間を造る。園路にはユニバーサルデザインを導入し、お年寄りから小さなお子様まで多くの方々が楽しめる森とする。



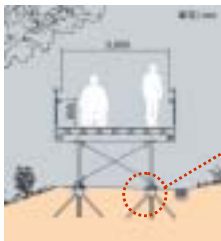
ユニバーサルデザインの園路



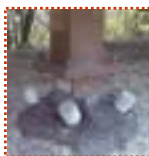
幹線園路エレベータ棟

幹線園路デッキ部

- 間伐材を活用
- 自然への負荷が軽い工法を採用



幹線園路デッキ部 断面図



従来より改変面積が少ない「ピン杭工法」

親林楽園

フィールドセンター内での環境学習や体験教室をはじめ、樹林地内での活動を通じて身近な自然にふれあい学習し、自然環境への理解を深める。博覧会時には、「森林体感ゾーン」で展開される環境学習プログラムの活動拠点となる。

リサイクルセンター

- 公園内の植物系廃棄物(刈草・剪定枝葉)などを堆肥化して園内に還元。
- 環境学習プログラムの実践の場(緑の循環の仕組みを学ぶ)



環境観察デッキ イメージ



フィールドセンター外観



センター内部

環境学習の場としての活用

樹林地内での野外活動やフィールドセンターにおける環境学習活動、四季折々の自然とのふれあい、環境負荷低減への取り組みを学ぶことなど、環境学習の場として活用。

博覧会プログラム「森の自然学校」

～森の中で五感と想像力を使う体験プログラム～

博覧会では、もりのゾーンを活用して自然とふれあ体験プログラムを展開し、参加・体験を通じて自然と人との関係を見直すきっかけを提供。



自己完結型トイレ

汚水をバクテリアで分解後、加熱して水分と残渣に分離。水分は脱臭してトイレ洗浄水などに循環利用する。(残渣は蓄積して処分)



こどものひろば

基本的な考え方

既設の愛知県児童総合センター、愛知国際児童年記念館と連携し、子どもの遊び、自然体験学習の場を整備

自然の力や仕組みを体感する遊戯施設を整備

愛知県児童総合センター

- ・設置目的: 児童の健全育成と子育て環境づくりの推進
- ・設置主体: 愛知県
- ・開設: 平成8年
- ・施設: プレイアトリウム、発見・体験・創作ゾーンなど



空からの外観



遊びのプログラム活動を実践

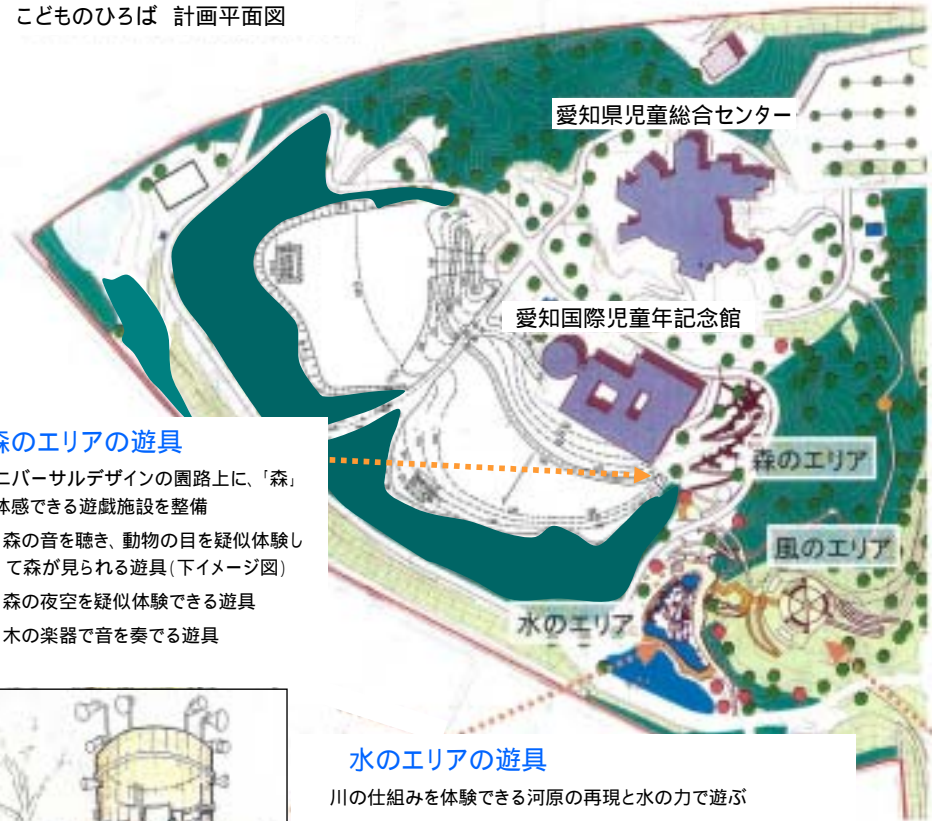
愛知国際児童年記念館

- ・設置目的: 児童の健全育成
- ・設置主体: 国(厚生労働省)
- ・開設: 昭和56年
- ・施設: 子どもホール、童話館、ビデオ室など



外観

こどものひろば 計画平面図



森のエリアの遊具

ユニバーサルデザインの園路上に、「森」を体感できる遊戯施設を整備

- ・森の音を聴き、動物の目を疑似体験して森が見られる遊具(下イメージ図)
- ・森の夜空を疑似体験できる遊具
- ・木の楽器で音を奏でる遊具



水のエリアの遊具

川の仕組みを体験できる河原の再現と水の力で遊ぶ

- ・小石を自由に動かして山や川を作ったり、ジャブジャブ遊べる池
- ・足こぎ水車、アルキメデスの水車



アルキメデスの水車

博覧会プログラム

「グローイング・ヴィレッジ」

～「自然の中で、遊び、育つ」プログラムを展開～

博覧会では、木登りなどの遊びをとおして、子どもたちに自然の叡智・「グローイング(育み・育てる)」を体験してもらおうとなる。



グローイング・ヴィレッジ イメージ

風のエリアの遊具

このエリアのランドマークとなる遊戯施設を整備

- ・風の力が学べる風車
- ・地中と外気の温度差が体感できるチューブ



日時

平成16年5月12日(水) 午後1時から午後4時

場所

名鉄ニューグランドホテル

委員(敬称略、五十音順)

座長 松井 寛 (名古屋工業大学名誉教授、名城大学教授)
副座長 涌井雅之 (桐蔭横浜大学教授、(財)2005年日本国際博覧会協会 会場演出総合プロデューサー)

委員 阿蘇裕矢 (静岡文化芸術大学教授)
今井啓之 (レクリエーション・コーディネーター)
小川巧記 ((財)2005年日本国際博覧会協会 市民参加プロデューサー)

加賀昭一 (県小中学校長会副会長)
小出宣昭 (中日新聞取締役編集局長)
土屋千尋 (愛知県立大学教授)
土居友二 ((社)中部経済連合会総務部長兼万博推進担当部長)

中野良子 (女優、WILL国際文化交流センター代表)
萩原喜之 (NPO中部リサイクル運動市民の会 代表理事)

林 進 (岐阜大学名誉教授)
松尾宗典 (茶道松尾流家元)
三井政昭 ((財)愛知県体育協会事務局長)
夢童由里子 (造形作家)
安井里枝 (スポーツ少年団指導者)

意見概要

(ブリーフィング内容より、出席者 松井座長、涌井副座長)

今回の博覧会は、従来の「国家」「グローバル企業」というふたつのエンジンに加え、「市民参加」という3つめのエンジン(理念)が柱となっている。これは博覧会史上初めての特色であり、青少年公園の計画にも継承していくことが重要である。「市民共働」を実践できる公園であってほしい。

「新しいニーズ」を的確にとらえることが大切であり、ニーズを分析する必要がある。「青少年公園」の名前にとらわれず、高齢者や社会的弱者が青少年と共に参加し、交流し、触発しあうことができる公園づくりを進めてほしい。

公園を利用し楽しむだけでなく、例えば、環境・生命・スポーツ・レクリエーション・自然観察などのプレイラーやインタープリターの教育・訓練の場として活用できると良い。公園周辺5大学との連携も考えられる。とりわけ、新しい要素として「防災」について教育・訓練できる場として活用できると良い。

愛知県は、特に「ものづくり」における環境産業、暮らしにおける環境分野において先進県である。こうした「環境先進県」にふさわしい公園を目指してほしい。

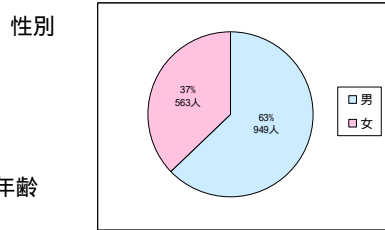
地域にある資源(歴史、文化、産業)を活かしながら、利用者がリラックスし、癒される公園としてほしい。

これまでのように単に公園をつくっておしまいではなく、これからは維持管理まで含めたトータルコストに視点をおきながら、パークマネジメント・公園経営に重心をおいた公園計画としていくべきである。

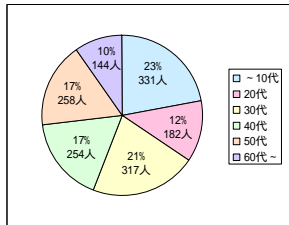


回答者数: 1532人
 調査期間: 平成16年6月14日 ~ 7月13日
 調査方法: 一般 郵送、愛知県HP、小学生 小学校にて直接アンケート

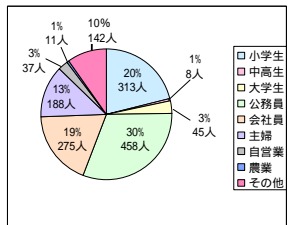
利用者属性



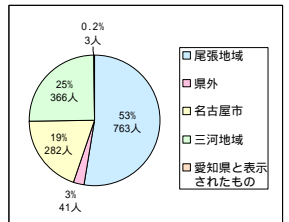
年齢



職業

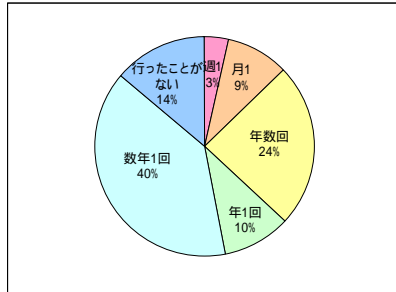


居住地



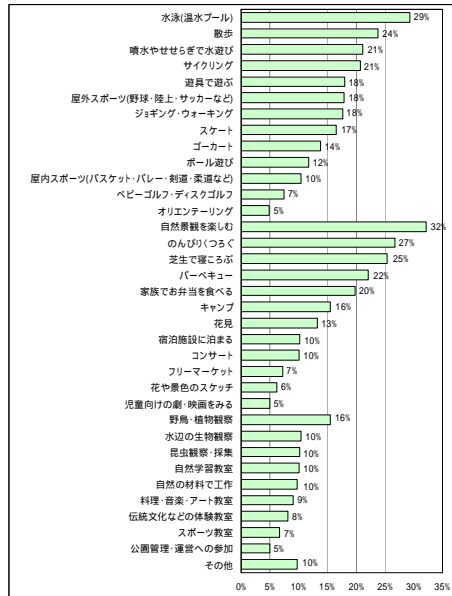
利用回数

・8割以上が利用したことがある



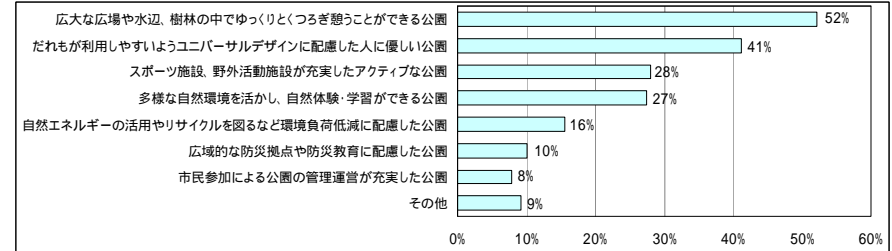
希望する利用形態 (5つまで選択可)

・自然の中での憩い、交流、気軽な健康づくり利用を希望している



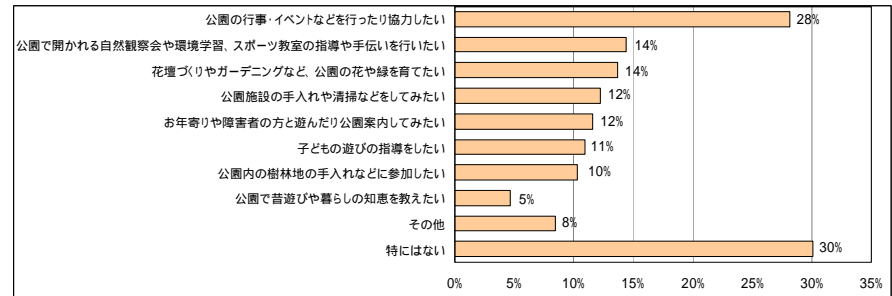
将来の公園イメージ (2つまで選択可)

・くつろぎ・憩いの場、人にやさしい公園をイメージしている



管理・運営への参加 (該当するもの全て選択可)

・行事・イベントへの協力への参加希望が多い



自由意見 (回答数842件)

- ・自然を壊さずに芝生や原っぱで自由に遊べる自然豊かな公園。(回答数223件)
- ・安全で気楽に行くことができ、老若男女を問わずのんびりくつろぎ楽しめる公園。(回答数210件)
- ・遊具遊びやスポーツ活動ができる公園。(回答数94件)
- ・児童総合センターやスポーツ施設、キャンプ場、スケート場、サイクリングロードなど青少年公園にはたくさんの思い出があり、新しい公園にもこれまでの良さを残して欲しい。(回答数80件)
- ・万博の理念を継承し、その遺産を次世代につないでいくことが21世紀にふさわしい公園であると思う。万博で利用した施設や内容をうまく公園づくりに活かしていく。(回答数54件)
- ・公園の管理に市民が参加し、運営もNPOや学生ボランティアと共に行って欲しい。また、維持管理を含めたトータルコスト面にも留意が必要。(回答数54件)
- ・自然や環境全般などについて楽しく学んだり、体験学習できる公園。(回答数43件)

4つの基本方針

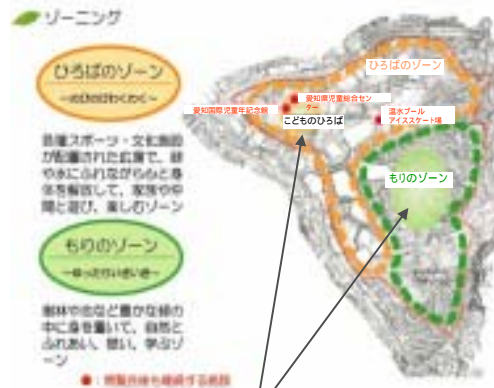
(都市計画公園決定時に設定)

新しいニーズに対応した
都市公園

青少年公園の歴史を活かした
都市公園

博覧会の理念と成果を継承する
都市公園

多様な自然環境を育む
都市公園



基本方針に基づいて整備中
もりのゾーン： 日本庭園・親林楽園・林床花園
ひろばのゾーン： こどものひろばの一部

懇話会

市民協働を実践できる公園
幅広い世代の交流の場
プレリーダー・インタープリターの養成、防災教育の場
環境先進県・愛知にふさわしい公園
地域資源を活かしながリラックスし癒される公園
パークマネジメント、公園経営に重心を置く

県民アンケート調査

公園利用イメージ
「自然の中の憩い・交流・気軽な健康づくり」ができる利用形態を希望している(自然景観を楽しむ、のんびりくつろぐなど各々約3割)

公園の将来像
「のんびりとくつろぎ憩う公園」(約5割)
「人にやさしい公園」(約4割)

管理運営への参加
「各種イベントへ協力」(約3割)

整備・活用の方針(案)

【整備・活用の柱】

- 幅広い利用者や地域の人々などと楽しく利用、親しまれ、県土県民の安心・安全を図る公園を目指す
- 「愛・地球博」の理念と成果を継承し、総合的な環境学習の場となる公園を目指す
- 公園の歴史や地域資源を活かしなが、多様な交流・体験が図られる市民参加公園を目指す

【視点と個別メニュー】

- 子どもから高齢者までみんなに楽しく親しまれる公園づくり
幅広い利用者層に楽しく親しまれる公園づくり
青少年公園の歴史に新しい魅力を加え、にぎわいのある利用創造を図る
日本の伝統文化とのふれあい
地域との連携を図り、公園の利活用の増進
博覧会を記念したメモリアルな公園づくり
最新技術の活用による楽しい公園づくり
- 環境と共生し環境学習の拠点となる公園づくり
総合的な環境学習拠点(持続社会系、自然環境系)として先導的な役割を担う
環境負荷軽減に配慮
自然再生・修復、緑地保全
- 市民協働による先導的な公園づくり
博覧会成果を継承し、市民協働を先導的に実践する
公園における市民参加・協働のノウハウを開発し、県営公園に展開していく
市民協働の情報発信等により、市民の参加意欲を醸成する
- 広域的な防災活動支援拠点としての機能充実
防災支援施設の整備
防災体験の場
防災時の地域連携

1)基本事項

基本ゾーニング:ひろばのゾーン 公園北西部の博覧会における主会場ゾーン

もりのゾーン 博覧会における森林体感ゾーン

エントランス: メインエントランス 北入口(東部丘陵線の公園駅設置エリア)

サブエントランス 西入口(もりのゾーンへの入口)

駐車場: 過去の駐車台数の実績値と東部丘陵線利用率(想定)を勘案し算出

管理棟: 適切な位置に配置

スポーツ施設: 過去の利用状況と周辺地の整備状況などを勘案し配置

緑地保全: 既存樹林(博覧会会場における回復緑地を含む)は原則として保全

旧公園から継続利用する主な施設:

施設の設置目的を勘案して、下記施設については博覧会終了後も存続することを公園の基本方針としている。

温水プール・アイススケート場(*1)、愛知県児童総合センター(*2)、愛知国際児童年記念館(*3)

博覧会前整備区域:

もりのゾーン 全域(日本庭園・林床花園・親林楽園)

ひろばのゾーン 一部(自然体感遊具、こいの池デッキなど)

博覧会施設: パビリオン等博覧会施設は、博覧会終了後、撤去を原則としている。(*4)

早期開園区域: 旧公園から継続利用する施設、博覧会前整備区域、必要となる駐車場などの施設(一次供用区域)

2)もりのゾーンの空間構成(案)

樹林や池など豊かな緑の中に身を置いて、自然とふれあい、憩い、学ぶゾーン

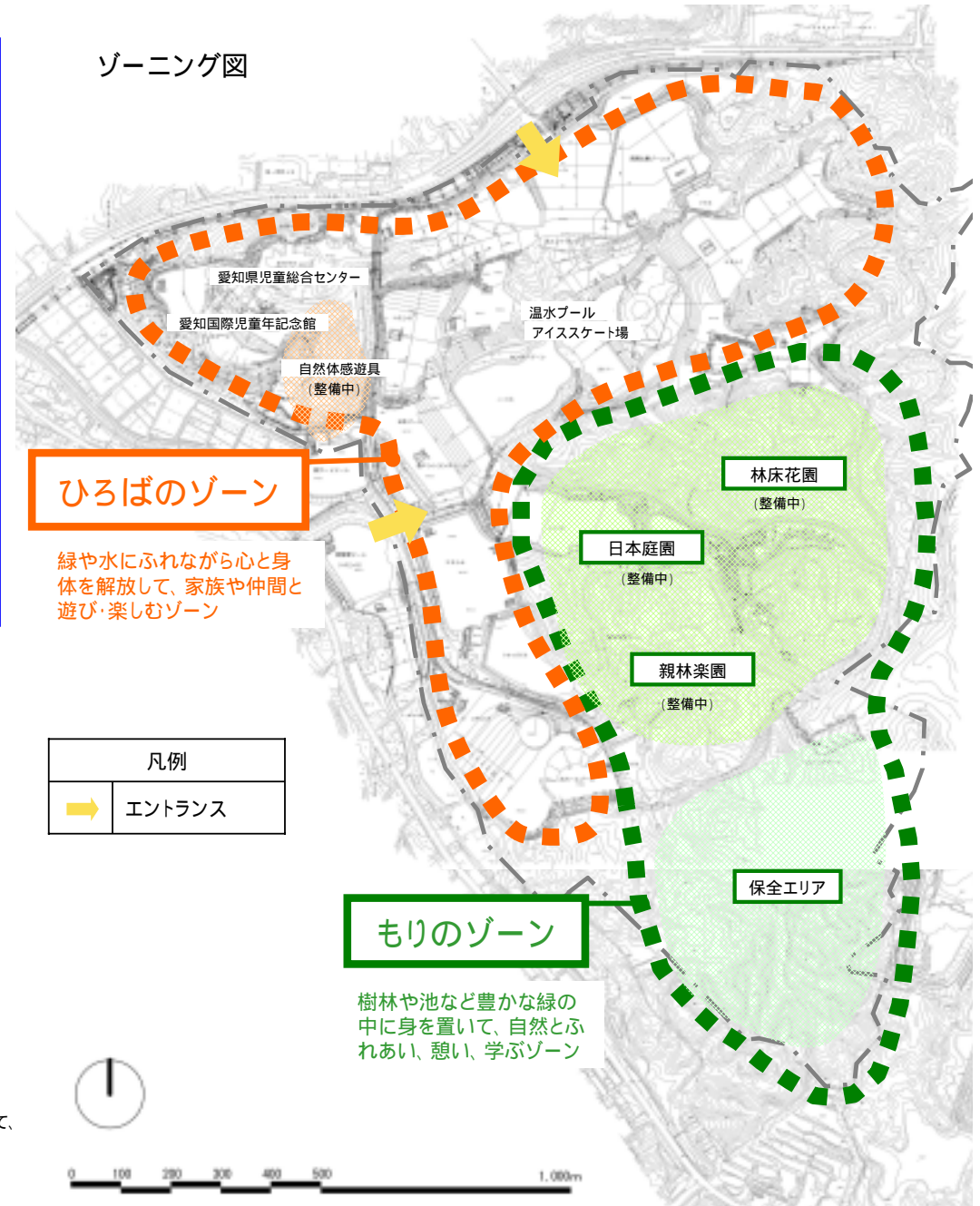
- * 樹林地内での野外活動や四季折々の自然とふれあい、自然環境への理解を深める空間の整備
- * 伝統と文化を学び、ふれあう日本庭園の整備
- * もりのゾーンに生息する多様な生物や自然環境を保全・育成

3)ひろばのゾーンの空間構成(案)

緑や水にふれながら心と身体を解放して、家族や仲間と遊び、楽しむゾーン

- * 水と緑を活かした多様な交流空間の整備
- * 環境学習など博覧会の成果を継承していく機能の導入
- * 家族や仲間と楽しむレクリエーション、スポーツ活動空間の整備
- * 広域公園としてふさわしい公園入口の顔づくり

ゾーニング図



(*1)雨天時や年間を通じての利用ができる屋内型レジャー、スポーツ施設として平成6年完成。

(*2)児童福祉法に基づく児童厚生施設であり、「21世紀を担う児童の健全育成を総合的に推進していく拠点」として、「遊び」を通じて「心豊かでたくましく活力のある子ども」を育てることを目的とする施設。平成8年度完成。

(*3)昭和54年に開催された国際児童年イベントを記念し、児童の健全育成を目的とする施設。昭和56年完成。

(*4)博覧会の理念と成果を継承する観点から、活用について検討する必要がある。